

中期経営計画 「VISION75（2008）」

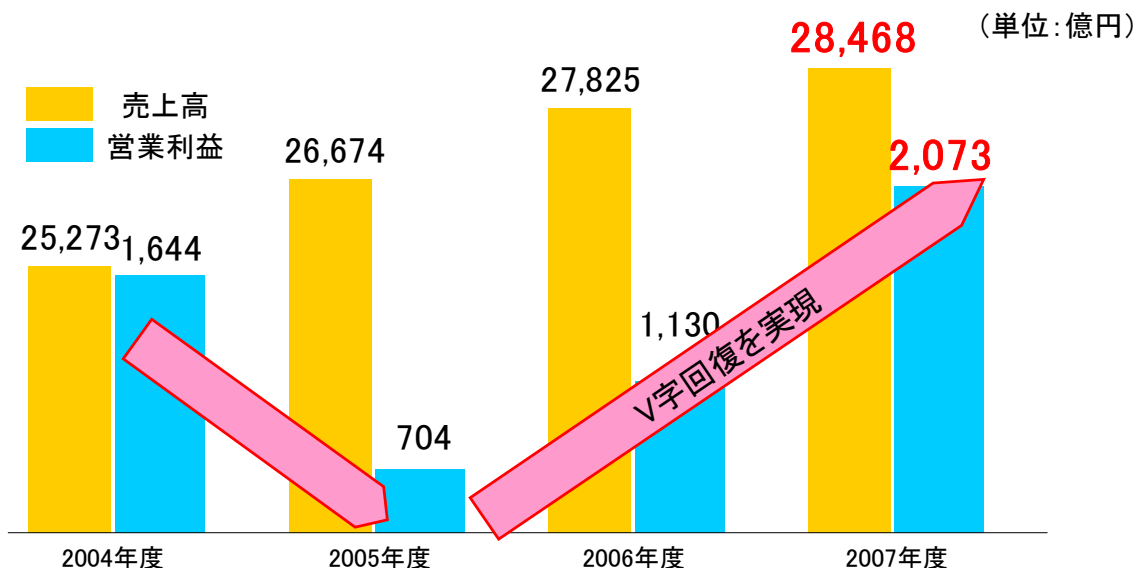
富士フイルムホールディングス株式会社
2008年4月28日

注意 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

VISION75（2007）レビュー

■ VISION75（2007）総括

● **売上高・営業利益**とも**過去最高額**を達成



■ VISION75 (2007) の展開

成長戦略のさらなる推進

- 重点事業分野における戦略展開
- 富山化学工業(株)買収による医薬分野本格参入

強靱な企業体質の実現 スリム&ストロング活動

- デジタルカメラ事業の構造改革
- シェアードサービス会社 富士フィルムビジネスエキスパート(株) 設立
- オフィスサプライ品のe販売体制強化と富士ゼロックスオフィスサプライの解散
- 富士ゼロックスのカスタマーエンジニア等の販売会社への移籍
- 物流・保険の仕組み強化・効率化 他

	'07年度	'06年度
SG&A比率	26.7%	27.3%

2

新中期経営計画 VISION75 (2008)

■ VISION75 (2008) の重点課題

基本戦略

VISION75 (2007) の戦略をさらに推進

- 成長戦略のさらなる推進
- 強靱な企業体質の実現

原材料価格高騰や円高進行による逆風下
2009年度業績目標を確実に達成する

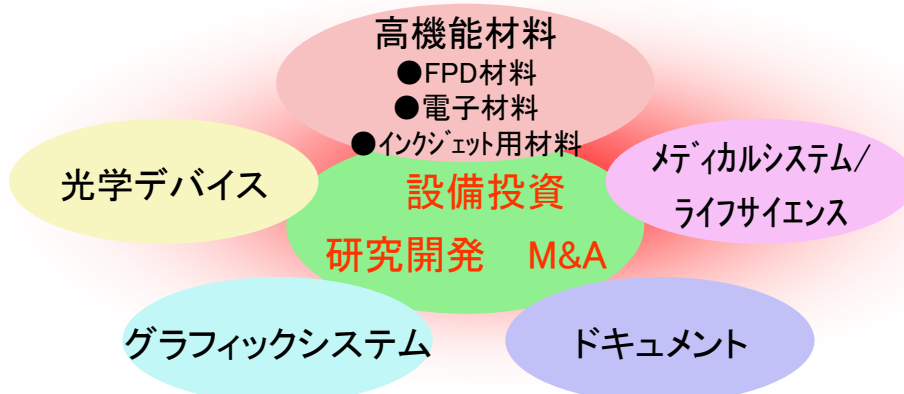
3

■ VISION75 (2008) の成長戦略

基本戦略

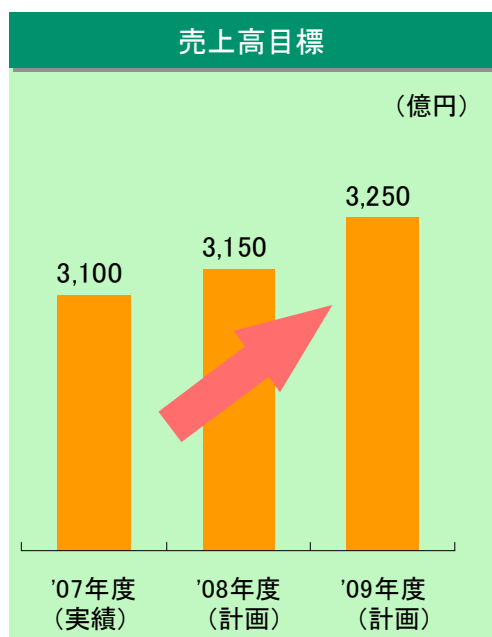
- ユーザーニーズの捕捉と高付加価値製品へのシフトによる競争優位の確保
- 広範な事業ドメインをカバーすることによる、より多くのビジネスチャンスの確保
- グループシナジーの発揮による事業の強化・拡大

重点事業分野



VISION75 (2008) 重点事業

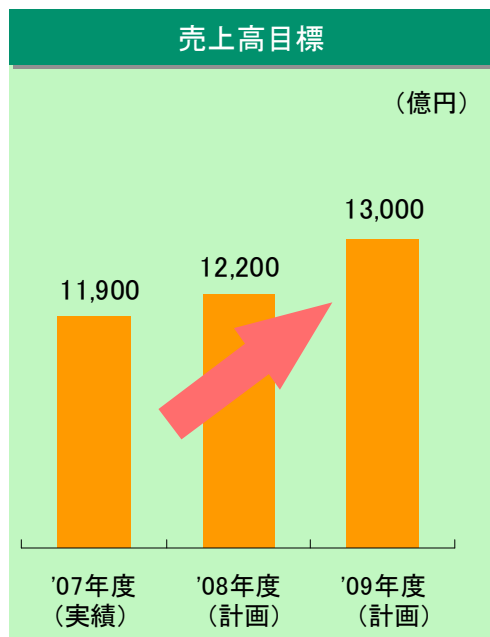
■ グラフィックシステム事業



- 事業環境
- 原材料であるアルミ・銀価格の高騰
 - デジタルプリンティング市場の拡大

- 富士フィルムの展開
- 製販共同でのコストダウン推進による収益力強化
 - CTPを中心とする刷版事業の拡大
 - ✓ CTPワールドワイドシェア40%を目指す
 - ✓ CTPプレート生産能力の増強
 - 富士ゼロックス、富士フィルムセリコールなどのグループ技術を活かしたデジタルプリンティングビジネスの拡大

■ ドキュメントソリューション事業



事業環境

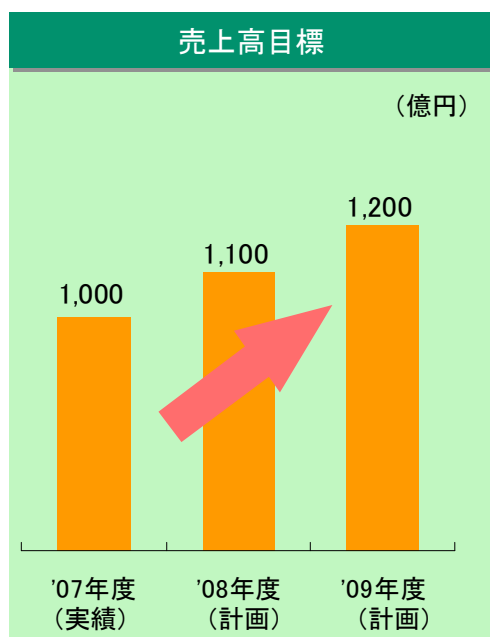
- オフィスプロダクトは、国内では高付加価値製品ニーズ拡大、アジア・中国では市場拡大が継続
- パブリッシング/サービスビジネスの市場本格拡大と競争激化

富士フィルムの展開

- 国内オフィスプロダクトシェアNo.1獲得
- アジア・中国市場での戦略展開の加速とカバレッジ強化による高い成長の継続
- 商品競争力強化と営業力強化によるパブリッシング事業の成長拡大
- スリム&ストロング活動推進による原価率・SG&A比率の改善

6

■ 光学デバイス事業



事業環境

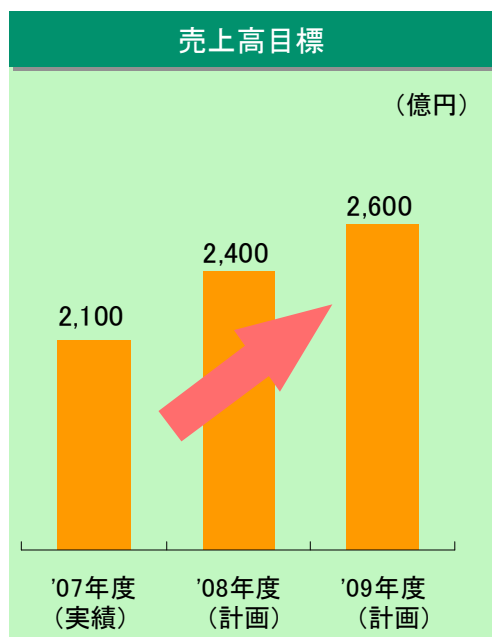
- カメラ付き携帯電話用レンズの高画素化・高機能化の進展
- 監視用、車載用、認証用カメラレンズの市場拡大

富士フィルムの展開

- カメラ付き携帯電話用レンズのさらなる高付加価値化による事業拡大
- 監視用、車載用、認証用カメラレンズの新規需要の獲得による事業拡大
- HDテレビカメラレンズ事業の拡大

7

■ フラットパネルディスプレイ材料事業



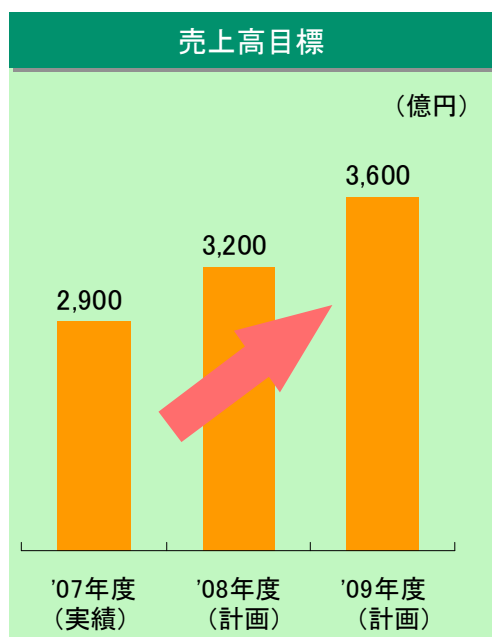
事業環境

- 液晶ディスプレイ市場の成長は継続も、パネル価格の下落、材料メーカーへの値下げ要求の高まり
- 偏光板メーカーでのTACフィルム使用ロスの減少
- セット・パネルメーカー業界における再編の動き

富士フィルムの展開

- 26/32インチ液晶 TVへのWVフィルム搭載拡大 (TNモード化)
- VAモード用高機能フィルムの多品種化展開によるシェア拡大
- IPSモード用高機能性フィルムのデファクトスタンダード維持

■ メディカルシステム/ライフサイエンス事業



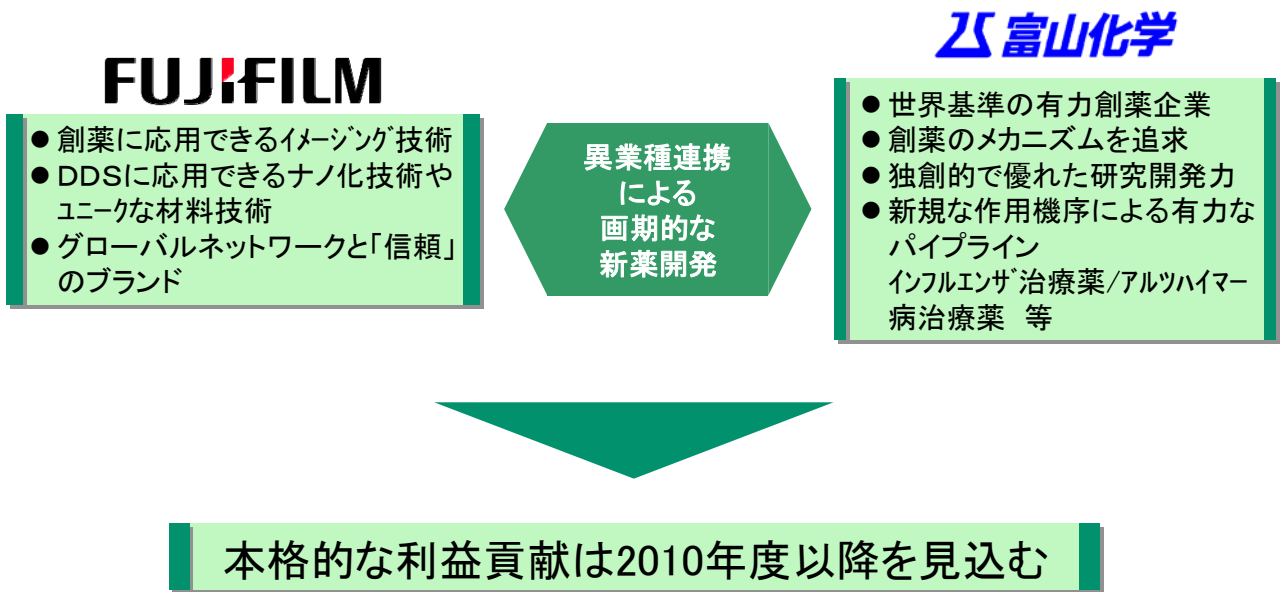
事業環境

- 国内診療報酬改定によるFCR、SYNAPSE、フィルム需要への影響
- 内視鏡分野での競争激化

富士フィルムの展開

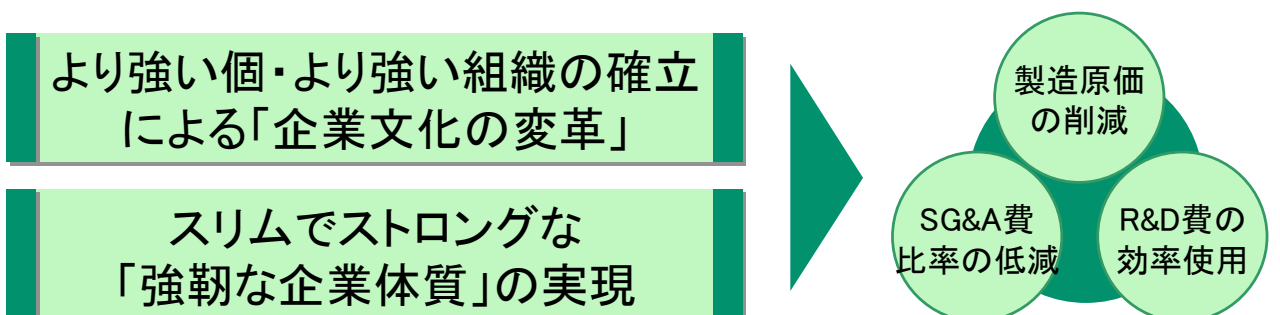
- 画像診断領域での商品化スピード向上、ラインアップ強化と販売チャネル強化、コスト競争力の高いFCRの導入
- SYNAPSEの機能強化によるネットワークビジネスの拡大
- 内視鏡分野へのリソース投入による競争力強化とコスト削減の推進
- 医薬分野でのシナジー創出・拡大

■ ライフサイエンス事業



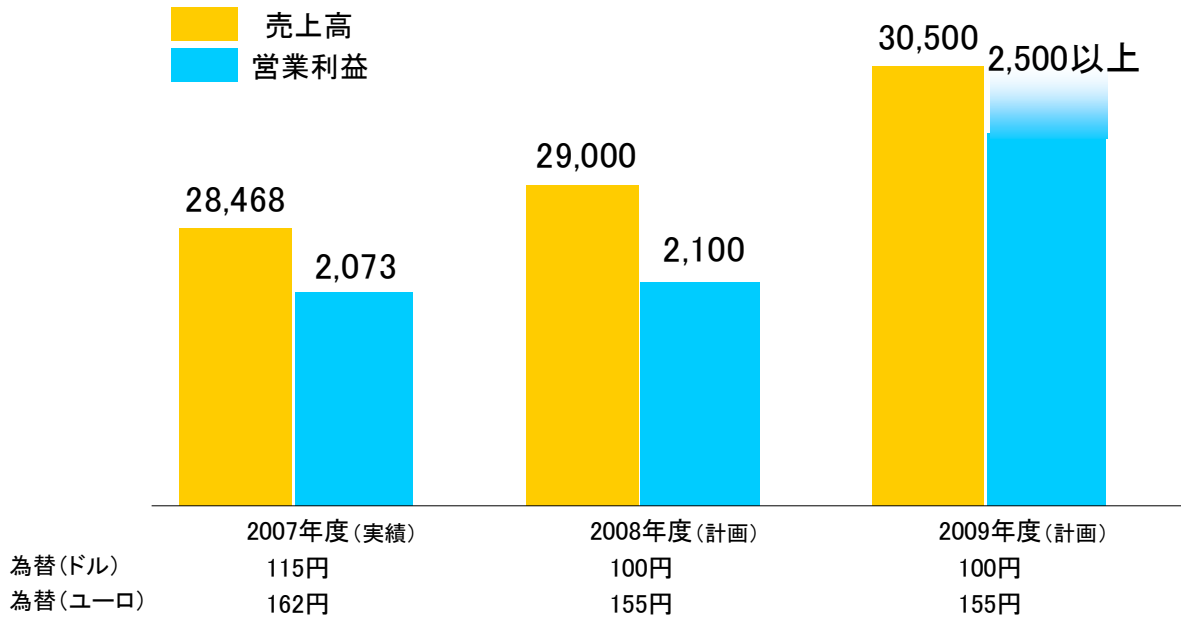
■ 強靱な企業体質の実現「スリム&ストロング活動」

●グループ全体で約1,300のテーマで活動推進中



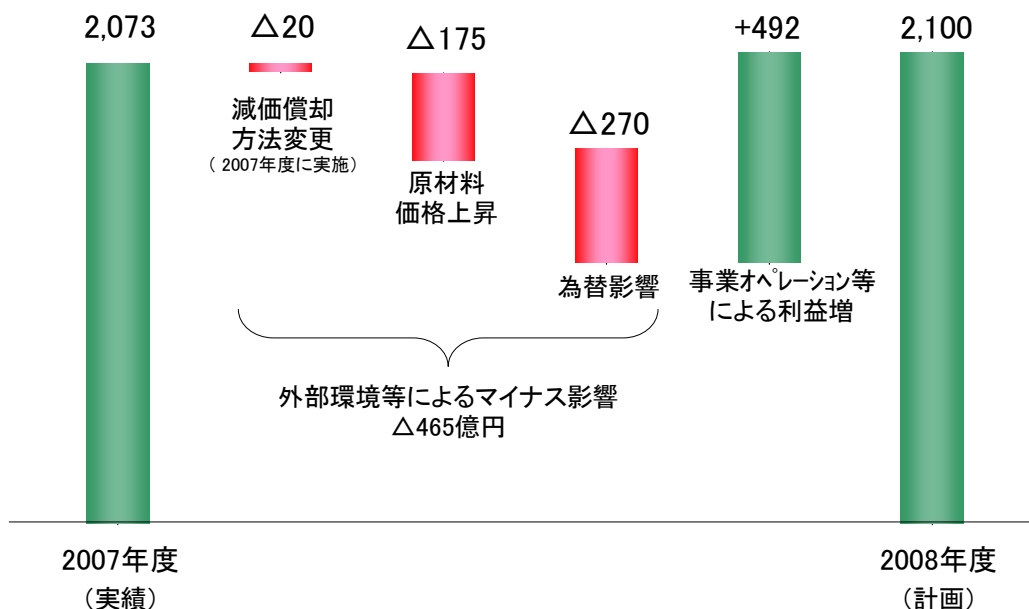
■ VISION75 (2008) 業績目標

(単位: 億円)



■ 2008年度営業利益分析 (対2007年度実績)

(単位: 億円)



■ 2009年度営業利益分析

(今回計画 (VISION75(2008)) 対 前回計画 (VISION75(2007)))

- 2009年度利益に含まれる主な外部要因

(単位: 億円)

影響要因	
減価償却方法変更※	△15
原材料価格上昇	△155
為替影響	+10
合計	△160

※減価償却方法変更は、2007年度に実施

株主還元

■ 株主還元方針

- 株主還元性向※目標: 25%

2007年度実績	
●配当金	: 35円/株
●自社株買い	: 6,700千株 341億円
 株主還元性向 <u>50%</u>	

2008年度	
●配当金	: 35円/株
(2008年4月28日発表)	

※株主還元性向 =
(配当額 + 自己株式取得額) ÷ 連結純利益

■ 2008年度業績予想

(単位:億円)

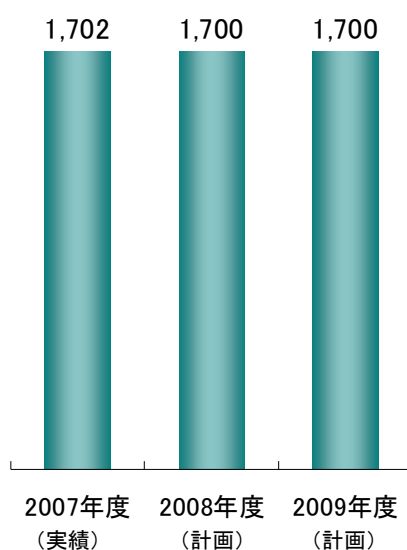
	2008年度 (計画)		2007年度 (実績)		増減	
					金額	%
売上高	100.0%	29,000	100.0%	28,468	+532	+1.9
営業利益	7.2%	2,100	7.3%	2,073	+27	+1.3
税引前利益	7.2%	2,100	7.0%	1,993	+107	+5.3
当期純利益	3.8%	1,100	3.7%	1,044	+56	+5.3
1株当たり当期純利益		218.08円		205.43円	+12.65円	+6.2

為替:米ドル	100円	115円	△15円
ユーロ	155円	162円	△7円

参考データ 設備投資

■ 設備投資※

(単位:億円)



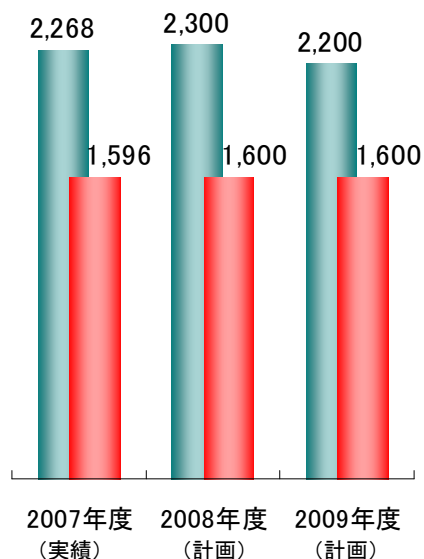
2008・2009年度のポイント

- 急ピッチで進めてきたFPD材料事業関連の設備投資が一巡。
- みなとみらい21に建設中の富士ゼロックス新研究開発拠点(累計約600億円)が含まれる。
- 2009年度には、オランダ工場でのCTPプレート生産ライン建設(約150億円)が含まれる。

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 減価償却費

■ 減価償却費トータル (単位: 億円)
 ■ 有形固定資産の減価償却費※



減価償却方法変更の影響

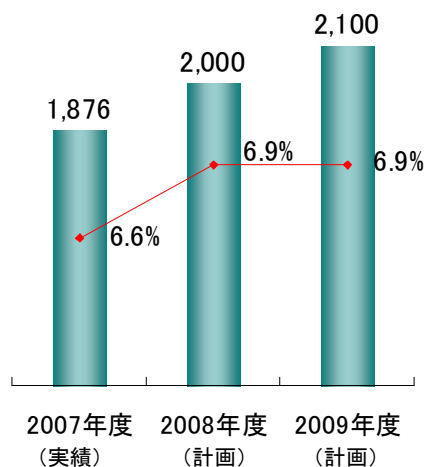
	'07年度 (実績)	'08年度 (計画)	'09年度 (計画)
PL影響額	△270	△290	△210
対前年比較	△270	△20	+80

注: 減価償却方法変更は、2007年度に実施

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 研究開発費

■ 研究開発費 (単位: 億円)
 ■ : 売上高研究開発費率 (%)



2008・2009年度のポイント

- 富山化学工業の連結子会社化により、2008年度は対2007年度で10%弱の増加。

FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>